

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成										4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下									
項目	重点目標		質問項目	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R6.12月 肯定率					
			○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者					4	3	2	1	肯定率	全体肯定率						
6 研修・ 管理運営	・規律保持・服務規律の徹底と心身の健康管理への配慮  ・教職員のキャリアステージに応じた校務分掌と研修の充実による資質・能力と働きがいの向上	㉓	□本校では、適切な研修が実施され、教職員の資質・能力の向上や自己研修に役立てている。	A	【考察】 今年度、中予地区人権・同和教育研究協議会の会場校となっていることもあり、人権に関わる問題やその指導に関する教員研修を積み重ねることができている。ベテランの人権・同和教育主任はもとより、若手の研修主任や生徒指導主事等も大変熱心に校務に当たってくれており、教職員の資質・能力の向上に有益な情報を適宜共有し、全教職員が伸び合う雰囲気が醸成されている。 【改善方策】 人権・同和教育については引き続き全教職員での研修を重ね、質的向上を図っていく。また、今後は各教職員が自らのキャリア形成に必要な研修を深めていくことができるよう、学校外で行われる研修にも参加しやすい状況をつくっていきたい。	教職員アンケート	◎	60	40	0	0	100	100	100					
		㉔	□本校は、連絡・報告・相談を的確に行い、服務規律を遵守し、協働体制の確立に努めている。	A	【考察】 本校では、職員会のみならず、情報共有は日常的に活発に行われており、よりよく学校運営が成される体制が機能している。服務規律の遵守も、校長の指導及び各自の意識の高さのもと、確実に守られている。 【改善方策】 教職員同士の豊かな人間関係のもと、校長の示す学校経営のビジョンに全教職員がベクトルを合わせて諸活動に協働して取り組むことができている。また、連絡・報告・相談も密に行われており、それらが生徒の快適な学校生活や教育活動の質の高さ、保護者・地域の信頼につながっていることに一層留意し、今後も「普段を大切に」した教育活動を推進する。	教職員アンケート	◎	90	10	0	0	100		100					
	・働き方改革の推進による業務改善と温かみのある職場環境づくり  ・施設や備品及び薬品の等の点検・整備とその効果的な活用	㉕	□本校の職員室の雰囲気は温かく活力のある職場環境となっている。	A	【考察】 生徒の情報交換を中心に、教職員間で多くの会話がなされ、明るく活気のある職場となっている。また、若手教員が生き生きとした表情で教育活動に当たってくれていることも、職場の雰囲気を一層明るいものにしてくれている。それぞれが互いの業務にも気を配りながら、協力し合うこともできている。 【改善方策】 本校は小規模の学校であり、一人が受け持つ校務の量が規模校に比べると多いが、校長の指導のもと、全教職員が個性を発揮しながら積極的に学校運営に参画することができている。今後も全教職員が自身のキャリアステージに応じた働きがいをもつことができるよう留意していきたい。	教職員アンケート	◎	90	10	0	0	100	100	100					
		㉖	□本校では、適切な物的管理と事務管理が行われている。	A	【考察】 会計に関しては、ダブルチェックまたはトリプルチェックする体制となっており、適切に処理されている。施設や設備の安全管理についても定期的及び必要に応じた点検が実施され、校内の危険箇所が放置されるようなことはなかった。備品も適切に管理されている。学校環境の保全のため、PTA奉仕作業にも多くの方が参加してくださり感謝している。 【改善方策】 会計管理については、校長の指導のもと、より一層厳正に管理されている。施設・設備の管理、事務管理についても引き続き適切に行っていく。また、潜在的な危険箇所にも思考が及ぶように教職員間で意識を働き合わせていく。本校の人間関係の良さに流されることなく、管理面については引き続き厳格に行っていく。	教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100					
	・会計事務の正確な処理と厳正な管理体制の強化及び個人情報の管	㉗	□自分は、業務改善や長時間労働にならないことを意識した働き方ができている。	B	【考察】 おおむねワークライフバランスを意識して勤務することができているが、年度初めは事務処理等も多く、また、6月からは部活動の指導時間も長くなるため、ひと月の超過勤務時間が長くなりがちであった。 【改善方策】 超過勤務時間が多くなる原因の大部分は、部活動の指導であるが、本市における部活動の地域移行の動勢を踏まえながら、本校における働き方改革を進めていきたい。2学期からは勤務時間の削減も視野に入れ、原則水曜日を5時間授業で部活動指導もなしの日に設定している。併せて教職員一人ひとりの働きがいが増大するよう留意していきたい。	教職員アンケート	◎	22	56	11	11	88	88						

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名      ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均